

J-STAGE 中長期ビジョン(骨子)

本ビジョンの位置付け

- ・ J-STAGE の今後(5~7年程度)の運営方針を内外に提示・共有するもの。

J-STAGE の基本的なスタンス

- ・ 学術コミュニケーションのあり方は変容しつつあるが(媒体の変化、プレプリントの台頭、共有する研究成果の拡大等)、論文の重要性は今後も変わらない。J-STAGE は引き続き電子ジャーナル出版プラットフォームとしての役割を担い、論文を軸とした取組を行う。また、研究データに対する国内外の意識の高まりを受け、今後の取組について検討する際には、論文とそれに関係する研究データとの連携を視野に入れる。
- ・ 電子ジャーナル出版プラットフォームとして、出版にかかる標準機能(他の多くのプラットフォームで備えられている機能)については JST が責任を持って提供をする。それ以外の研究ワークフローにおいてデファクトとなりつつあるデータ連携やプレプリントといった機能は、ジャーナルのプレゼンス向上という観点において戦略上重要なため、必要な機能の J-STAGE への実装を目指す。実装のための進め方としては、機能の開発実施主体および費用負担主体は必ずしも JST でなく、利用機関や第三者が担う場合もあり得、また、開発方式については、JST による J-STAGE 本体に対する開発、他サービスとの連携、第三者による開発が考えられる。

■標準機能(例)

- ・ 論文を出版する機能

■それ以外の機能(例)

- ・ J-STAGE 掲載論文と外部リポジトリ(機関リポジトリ、分野別リポジトリ(NBDC)など)にあるデータと連携する機能を持つ。
- ・ J-STAGE 自身がリポジトリを持つ(J-STAGE 上に独自のリポジトリを構築する、NII データ基盤や figshare のような外部サービスを用いて J-STAGE 用のリポジトリを構築するなど)。

■利用機関や第三者が担う、開発方法(例)

- JST が J-STAGE 本体に対して開発を行う。柔軟かつ迅速な対応を可能とするため、当面は中~小規模の開発を積み重ね、フレームワークの陳腐化等が生じた場合に大規模システム開発を実施することを想定。
- 外部サービスを利用する(ScholarOne のような投稿審査システム、Similarity Check のような剽窃検知システム、figshare のようなデータリポジトリ、Open Science Framework Preprint のようなプレプリントサーバーなど)。オプションサービスとして提供する場合、投稿審査システムのように利用機関が利用料の一部を負担することを考える。

➤ 第三者が開発する(J-STAGE の API を活用して拡張ツールを作成)

- ・ ジャーナルが外部から評価を受ける要素は、掲載する論文内容の質(研究レベル)、ジャーナルとして信頼されるために備えるべき情報の整備、国際的に広く認知されているデータベースへの登載や指標の取得・向上がある。このうち J-STAGE はジャーナルとしての情報整備、データベースへの登載および指標の取得・向上を支援対象とし、ジャーナル側の努力によってのみ向上が可能な論文内容の質については対象としない。
- ・ J-STAGE に登載されているジャーナルについて、利用機関は論文内容の質の向上に努め、J-STAGE はジャーナルに関する情報整備における支援、論文及びジャーナルの普及促進に関するシステム面からの支援を通じた発信力向上に努める。発信力向上に関する取組を利用機関の協力を得ながら行うため、J-STAGE は取組の背景となる学術コミュニケーションに関する国内外の動向を利用機関に対して提供する。

担う役割

1. 【 Safe & Secure 】我が国の 2,000 を超える科学技術刊行物を出版・流通する電子ジャーナル出版プラットフォームとして、継続してサービスを提供するとともに、J-STAGE に登載されたコンテンツが継続して閲覧に供せるよう努める。
2. 【 Choice & Concentration(目的別支援) 】J-STAGE に登載される科学技術刊行物はジャーナル、研究報告書・技術報告書、会議論文・要旨集、解説書・一般情報誌等と幅広く、国内外での研究成果の公開・交流の場の提供・教育等とその目的や目標は多種多様である。これまでの支援は、全てのジャーナルの需要を満たす機能やサービスを提供することで行ってきたが、今後は方針を変え、ジャーナルの目的に応じて機能やサービスを強化する。特に、我が国のジャーナルのプレゼンス向上に向け、国際的なハイインパクトジャーナルを目指す英文誌に向けた支援を強化する。
3. 【 Research Workflow 】研究成果の発表・議論の場がジャーナルからプレプリントサーバーへ拡大する、研究データを研究成果として出版・流通する、といった学術コミュニケーションの変容に鑑み、論文の出版・流通に限定していた J-STAGE の役割を研究ワークフロー全般へ拡張する。これを成し遂げるため、システム間のデータの流をつなぐための方策、及び各学会の編集作業の代行機能を J-STAGE が有することの是非について検討する。
4. 【 Open Science 】オープンサイエンスに関する世界的な潮流に鑑み、J-STAGE に登載された論文及び研究データの利活用促進に資する取組を行うことにより、科学技術イノベーションの創出に寄与する。

行動計画

1. 電子ジャーナル出版プラットフォームの提供およびコンテンツへのアクセスの確保【 役割1. 】
 - ・ 我が国の科学技術刊行物の出版・流通に支障が生じないよう、世界標準に準拠したプラット

フォームを安定的に運用かつ提供する。

- ・ また、閲覧者に対し、コンテンツを継続して提供する。
- ・ 我が国の情報資産である論文情報が閲覧できなくなる事態が生じないよう、自然災害等により J-STAGE が情報提供サービスとしての役割を果たせなくなった場合に備え、ダークアーカイブ機能を付与する。

2. 利用機関の目的・目標に沿った支援【 役割2. 】

- ・ 各科学技術刊行物の実情に沿った支援を行うべく、利用機関の目標・方針、実現に向けた取組、抱えている課題等を把握するため、利用機関と個別に対話を行う場を設ける。
- ・ 利用機関が方針の背景を理解した上で取組を行えるよう、J-STAGE は利用機関に対し学術コミュニケーションに関する国内外の動向情報を提供する。
- ・ J-STAGE には多数の利用機関があり、複数機関が類似の課題を抱えている場合や、ある機関が抱える課題に関して他の機関が知見を有する場合等がありうる。このことから、J-STAGE の利用機関間での情報交換や相互連携が行われることを期待し、交流のための環境づくりを推進する。
- ・ 利用機関のニーズや学術コミュニケーションの動向等に基づき、刊行物の目的別に支援内容を定め、J-STAGE 利用機関とのパートナーリングの下に取組を実施する。
- ・ 公的機関としての制限(国の方針や政策課題解決に則った事業運営、投資可能な資源に限りがある、等)に鑑み、電子ジャーナルを出版するために必要なプラットフォーム機能はすべての J-STAGE 利用機関に対して提供する一方、国際的なプレゼンス向上に意欲的に取り組んでいる英文論文誌に対して付加的な支援を行う。

3. 日本の論文誌のプレゼンス向上に向けた支援【 役割2. 】

- ・ 論文誌が評価を受ける要素のうち J-STAGE が寄与しうる部分として、論文誌として信頼されるために備えるべき情報の整備、国際的に広く認知されているデータベースへの登載や指標の取得・向上に向けた支援等、品質向上に関する支援を強化する。本支援には、各種データベース・指標の概要や登載・取得に向けた手順等といった情報提供を含む。
- ・ 国際発信力を強化するため、海外に向けたマーケティングについて支援を行う。
- ・ 品質向上および海外マーケティング強化に関して各論文誌が抱える課題、それに対する検討・実施内容について、利用機関間での情報交換や分野ごとの相互連携が行われることを期待し、交流のための環境づくりを推進する。

4. 研究ワークフローの変容への対応およびオープンサイエンスの推進

【 役割3. および4. 】

- ・ フリーアクセス誌が J-STAGE 掲載誌の9割を占めている現状に鑑み、オープンアクセスとは何かといった基本情報を利用機関に対して提供する。フリーアクセス誌から国際的な標準に適合するオープンアクセス誌への転換を希望する学会誌に対しては、転換に向けた個別支援を提供する。

- ・ 日本で産出された研究成果の公開・利活用を促進するため、論文を軸としつつ、研究ワークフロー全般へと拡張する。プレプリントサーバーからジャーナルへの投稿・編集を経て、ジャーナルに掲載され、利活用されるまでの範囲を支えることを目指す。
- ・ 量・スピードとも増加する論文の利活用を促進するため、機械可読な形式(XML形式など)でのデータ整備に資する支援ツールの提供を検討する。
- ・ 利活用推進の方策として、外部のデータマイニング基盤・サービス等との連携を検討する。
- ・ プライオリティ先取に鎬を削る論文誌への対応として、プレプリントサーバーの設置、早期公開の多段階での実施等について検討する。我が国では機関リポジトリの取組が進んでおり、プレプリントサーバーとして活用できるポテンシャルが高いことから、J-STAGEにおいてプレプリントサーバーに関する検討を行う際には機関リポジトリを活用可能なリソースの一つとして検討する。
- ・ (公的研究資金による)論文のエビデンスデータを保存・公開することが求められているものの、そのためのリポジトリが整備されていない状況に鑑み、J-STAGE 掲載誌が利用可能な研究データ用リポジトリの構築・提供を検討する。
- ・ 研究データの品質確保と共有促進のため、データジャーナルの刊行を支援する。その際、例えば、ジャーナルに掲載された論文に用いられた研究データを掲載するデータジャーナルを当該ジャーナルの下に発刊するなど、論文と研究データの価値を相互に高める仕組みも考える。プレプリントサーバーと同様、機関リポジトリを活用可能なリソースの一つとして検討する。